

JAグリーン近江老蘇集落営農連絡協議会 (滋賀県近江八幡市)

GLOBALG.A.P.

2017年団体取得(米)

2018年団体取得(小麦、大麦、大豆、マンゴー)

2019年団体取得(白ねぎ)

協議会の概況

- 2007年度に設立された老蘇地域の4集落の営農組織からなる協議会で、資材の購入、共同防除、労働安全、環境保全など広域連携で対応すべき課題をいち早く実践
- 「売り手よし、買い手よし、世間よし」の近江商人三方よしをモットーにし、その後のGAPやSDGsの取組につなぐ

構成員：328農家(4法人)

面積：358.7ha



先進地視察の様子

▼GAPに取組んだきっかけ

集落営農ということで、兼業農家や高齢な構成員が多いため、「農作業従事者の安全確保」や「後継者への技術継承」等の課題を解決する活用ツールとして、GAPの取組を開始

▼GAPの継続に向けた取組

【構成員のGAPへの理解醸成】

取組当初は、構成員のGAPに対する理解度は様々であったため、4法人の集合研修や農場評価を実施。一年程かけて、GAPへの理解を深め、団体認証取得に向けた合意形成を実現

【JAによる団体事務局の運営】

- JAが団体事務局を担い、JA職員による講習会や他のGAP認証取得経営体への視察研修を通じて、団体構成員のモチベーション維持に貢献
- 4法人それぞれの管理手法や記録様式を活かしつつ、GAPの管理点に適合するように様式を見直すことで、構成員の負担を軽減



GAP講習会



点検項目の確認の様子

▼GAPの取組と効果

【円滑な役員交代等】

GAPの取組によって、労働管理などの書類やノウハウが蓄積され、改善を行う仕組みを構築

⇒ 円滑な役員交代や技術の継承を実現

【マニュアル化による経営改善】

一筆ごとの作業時間や肥料や農薬使用の記録をもとにした作業マニュアルを改善し、取組を徹底

⇒ 作業時間の短縮(代かき約15%、乾燥調製・袋詰め約25%)

【組合員の意見を踏まえた労働安全対策の充実化】

農作業に携わる組合員を対象に事故防止、衛生管理のアイデアを毎年募集し、集約した意見をもとにマニュアルを改善

⇒ 農作業安全の取組が着実に実践され、労働災害は3年間皆無を実現



広域かつ多人数の構成員を擁する組織がGAP認証取得を検討する上で、認証取得のプロセスから実践を含め参考となる優良事例